

令和 7 年度 長尾谷高等学校 学校評価について

< 目 次 >

- I 令和 7 年度 長尾谷高等学校 学校評価
- II 令和 7 年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート 概要
- III 令和 7 年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート 総括
- IV 令和 7 年度 長尾谷高等学校 学校関係者評価 概要
- V 「令和 7 年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

I 令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- (1) 一人ひとりを大切にし、自立した学びを続けられる人材を育成する
- (2) 一人ひとりの特性に配慮し、『学びの個別化』に対応した教育
- (3) A I 時代に対応

2 中期的目標

1 学校運営

- (1) 教育課程
- (2) 年間を通じた教育計画の作成
- (3) 教職員間の情報共有と連携強化
- (4) 開かれた学校づくり・情報公開
- (5) 危機管理

2 教育内容・教育の課題

- (1) 情報教育
- (2) 教育体制及び重点目標
- (3) 特別活動・部活動の充実

3 生徒指導・支援

- (1) 生徒支援（学習指導・進路指導）
- (2) 生徒指導・校内巡回の充実

4 教職員研修・資質向上

- (1) 教職員研修
- (2) O J T の効果的活用

【自己評価アンケート結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和7年12月～令和8年3月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見				
・実施日 <table><tr><td>教職員</td><td>令和7年12月19日(金) ～ 令和8年1月17日(土)</td></tr><tr><td>生徒・保護者</td><td>令和8年2月9日(月) ～ 令和8年3月9日(月)</td></tr></table> 【分析】 ＜教職員＞ 自己評価アンケートの回答率は100%であり、全教職員の意思が結果に充分反映されていると考えられる。全項目における肯定的回答（A+B）は92.7%であり、昨年度の回答より3.7ポイント下回ったものの、教職員が本校の教育全般にわたって、高い評価をしていることがわかる。 特に、特別活動、生徒指導方針の共通理解、自己研鑽の3項目が100%となっており、これらは、教職員の努力の積み重ねによる結果であり、自負するところである。 一方で、危機管理、情報教育、国際教育、部活動、研修体制、人権教育の項目については否定的回答（C+D）が1	教職員	令和7年12月19日(金) ～ 令和8年1月17日(土)	生徒・保護者	令和8年2月9日(月) ～ 令和8年3月9日(月)	＜学校関係者評価委員会＞ ・実施日 令和8年6月13日（土） ・評価委員 5名 【総括評価】 ・「学校運営」全般について、概ね全教職員が高評価していることから、貴校が全教職員の共通理解のもと組織的に学校運営を行っていることがわかる。しかしながら、「危機管理マニュアル」の周知徹底等に対する教職員の否定的回答が約13%である。この点については、昨今の高校教育を取り巻く状況を鑑みると、早急に改善すべきである。また、「お子さんは学校生活が楽しそうである」との質問に対し、保護者の26%が否定的回答であった。今後、保護者にも理解を得られるよう、より魅力ある学校運営を行っていただきたい。 ・教員アンケートの項目、「教育計画」、「教員と事務職員との連携」について、いずれも肯定的評価が98%を上回っており、教職員が常に相互連携し、教育活動に則った学校運
教職員	令和7年12月19日(金) ～ 令和8年1月17日(土)				
生徒・保護者	令和8年2月9日(月) ～ 令和8年3月9日(月)				

割以上みられることから、今後、学校全体として改善の余地があると思われる。 ＜生徒＞ 全項目における肯定的回答は84.8%であり、昨年度の回答より1.3ポイント下回っている。ホームページやNCC、特別活動の項目が95%を超える高評価となっている。 一方で、国際教育や部活動の項目については、否定的回答が3割を超えている。国際教育に関しては、Eクラス（セブ島語学研修）や海外語学研修（バンクーバー）を実施しており、部活動に関しても、6クラブが全国大会出場するなど実績もあることから、生徒への周知不足がその要因と考えられる。 また、学校生活は楽しいかという項目への否定的回答が2割程度あることを重く受け止め、生徒の満足度向上に向けた更なる取組が必要である。 ＜保護者＞ 全項目における肯定的回答は85.8%であり、昨年度の回答より0.9ポイント上回っており、生徒より1ポイント高い結果となった。 学校説明会やホームページ・NCC、プライバシーの項目が95%を超える高評価となっており、本校の魅力や特長が保護者にも充分理解されていることがわかる。 一方で、進路情報の提供・相談についての項目は2～3割の否定的回答がみられることから、その発信方法や相談体制のあり方については検討の余地がある。 また、この学校で学ぶことができて良かったの項目について、94.5%の肯定的回答があることは、全教職員がうれしいと感じるとともに、今後の励みとするところである。	営がなされている様子がうかがえる。 ・全体的に肯定的な評価が高く、教職間の連携が良く取れている事が伺える。また、情報公開においてはタイムリーに更新され適切な情報が発信、提供されている。 ・教職員の連携がとれ、校務がスムーズに行われている。 ・教職員による授業の充実や教員と職員の緊密な連携により、生徒にとって質の高い学校運営が実現されていることがうかがえる。特に、学校説明会の充実によって生徒数の確保につながっている点や、学校ホームページ・NCC（Nagaodani Cyber Campus）等を通じた継続的な情報発信により、生徒・保護者との信頼関係が構築されていることは高く評価できる。一方で、アンケート結果からは、学校の特色ある教育活動や部活動等について、更なる情報発信を期待する意見も見受けられる。本校の魅力をより多くの生徒・保護者へ伝えるためにも、引き続き、積極的な情報発信に期待したい。 ※各項目の詳細については、別添資料「V『令和7年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会』の意見」を参照。
---	--

3 令和7年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校運営	(1) 教育課程			
	教育課程内容の検証	ア学習指導要領の対応状況	学習指導要領と教育課程・授業内容との一致	教育課程は学習指導要領の趣旨内容に的確に対応している
	(2) 教育計画			
	教育計画の充実	教育計画の作成と内容の精選	各教科とも教育計画内容の精選を実施	年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めている
	(3) 情報共有と連携			
	ア 教員間の連携	教員間教科間の相互理解に基づく教育活動	相互理解と信頼関係の構築	緊密な連絡で相互理解に努め、共通意識をもって取り組んでいる
	イ 教員と事務職員間の連携	両者の間での情報共有の機会を増加させる。	相互理解と信頼関係の構築	教員と事務職員間の情報交換の機会を増加し相互理解連携を図っている

	(4) 情報公開			
	ア 学校ホームページの充実	学校ホームページの情報内容の精選と充実	公開情報を日常的にチェックし更新する	掲載する情報量や更新スピードについては、なお改善の余地がある
	イ 学校説明会の充実	説明内容の充実と開催の回数を最低10%増加する。	説明内容を精選し必要な情報を常に検証する	学校見学・説明会の充実のために、学校全体で取り組んでいる
	(5) 危機管理			
	危機管理マニュアル	役割の明確化と諸機関との連携	訓練内容の精選と充実	周知徹底や各種訓練の充実については、なお改善の余地がある
2 教育内容・教育の課題	(1) 情報教育			
	情報能力育成、情報モラル指導	I T活用能力育成と情報発信モラルの教育に取り組む	授業を含め様々な機会をとらえて指導する	情報リテラシーや情報発信モラルの育成については、全教職員で取り組む必要がある
	(2) 教育体制及び重点目標			
	ア 人間性を培う教育の充実	知性と感性の調和のとれた人間性を育む教育の実践	面接指導の充実が図られている	対面指導（面接指導）を通じて、生徒と向き合う粘り強い指導が展開されている
	イ 国際教育の充実	国際的視野に立った判断力・言動力の醸成	他者の人権尊重と価値観の多様性への理解	Eクラスのセブ島語学研修やバンクーバーへの海外語学研修を実施し、国際教育の充実に努めている
	(3) 特別活動・部活動			
	特別活動・部活動の充実	特別活動の実施内容と部活動指導の充実・活性化	特別活動の参加者数を10%増加させる。部活動の参加率を5%向上させる	特別活動は年170時間以上実施し本校の大きな特長となっている。、部活動では6クラブが全国大会出場を果たすなど実績を残している

3 生徒指導・支援	(1) 生徒支援（学習指導・進路指導）			
	ア 学習指導・進路指導の充実	生徒の実態に即した学習指導と進路指導の促進	生徒の実態を表面に現れた事象だけでなくその背景まで考慮しているか	個別相談等で一人ひとりの実態を見極めつつ、生徒の要望に即した指導の実践に努めている
	(2) 生徒指導・校内巡回の実施			
	生徒指導体制の確立	指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察の実施	共通認識に基づいた組織的対応と生徒への積極的な声掛けの実践で問題行動数を10%減少させる	教職員間の共通認識のもと、カウンセリングマインドを持って、生徒とのより良いコミュニケーションが図られている。問題行動数は減少傾向にある
4 教職員研修・資質向上	(1) 自己研修・資質向上			
	研修体制の充実	自らの資質向上に努める	自らの資質向上に務めているか	教員の資質向上については研修参加等、各自向上心をもって進めている。人権教育の進化充実については、なお改善の余地がある
	(2) O J T			
	O J Tの効果的な活用	教職員間での業務遂行の際の良好な連携・協力体制の構築	業務遂行について今教職員相互に関心を持ち、経験者による適宜・適切な助言ができているか	管理職やベテランからの時宜を得た的確な指導・助言が行われており、教職員全体の資質向上につながっている

4 【自己評価アンケートを踏まえた 令和8年度の改善点】

(1) ICT 活用能力や情報発信モラルの育成

情報通信技術の急速な進展に伴い、ICT 機器を用いた教育はますます重要性を増している。また、生徒や保護者のスマートフォン等への依存度は、ますます高くなっている。このような中であって、教職員一人ひとりが、ICT 機器に関するスキルの更なる向上に努めるとともに、通信制の特色や本校生徒の実態に即した授業内容の工夫、改善やモラル指導の充実を着実に進めていくことが何よりも重要である。

また、情報教育の充実について、全校的な視野から研究・検討を進めると同時に、学園全体の校務運営・情報管理システムについても、学園本部との連携のもと、改善・充実に向けた取組を進めていくことが喫緊の課題である。

(2) 国際的視野に立った思考力・判断力の育成

国際情勢の流動化・複雑化を受けて、国際的視野に立った思考力・判断力の育成がますます重要性を増している。本校では、従来実施してきた E クラスの語学研修（セブ島・クアラルンプール）や海外語学スクーリング（バンクーバー）に加え、令和8年度夏季に企画されたアイルランドへの研修旅行が、中東情勢の悪化を受け中止となったことは残念であるが、次年度以降も、海外研修旅行は実施する方向で検討が進められている。

これらの取組に多くの生徒が積極的に参加することで、将来に必要な国際的知見をより深められるよう、学校全体で推進していかなければならない。

Ⅱ 令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート概要

2025（令和7）年度の学校法人東洋学園長尾谷高等学校の教育活動について、関係教職員、生徒、保護者による自己評価を実施した。

今年度より、アンケート方式を従来の紙ベースから、Google フォームを使用したスマートフォン等での回答形式とした。

教職員用

・アンケート内容

学校法人東洋学園の中期・長期経営目標や長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問項目は20問とした。なお、質問数や内容は昨年度までと同じである。

・アンケート対象者

枚方本校・梅田校・なんば校のすべての常勤教員と事務総括主任の計55名を対象とした。

・アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中からあてはまるものを回答する方法とした。

生徒・保護者用

・アンケート内容

長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問項目は22問とした。質問数や内容は昨年度と同じである。

・アンケート対象者

枚方本校・梅田校・なんば校に在籍するすべての生徒・保護者を対象者とし、その中から生徒131名、保護者127名より回答を得た。

・アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中からあてはまるものを回答する方法とした。

【令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙（教職員用）】

所属校()名前()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
学校運営	教育課程	学習指導要領への対応	1	学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか	
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか	
	連携	教員間連携	3	教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか	
		教員と事務職員との連携	4	各分校分室内で教員と事務職員との相互理解が構築されていますか	
	情報公開	学校HPの充実	5	学校HPなど公開する情報は日常的に点検、更新されていますか	
		学校説明会の充実	6	説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか	
	危機管理	危機管理マニュアル	7	役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか	
教育内容	情報教育	情報教育の充実	8	IT活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか	
	教育体制	人間性を培う教育の充実	9	生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか	
			10	生徒が興味関心を持てるような面接指導(授業)の充実が図られていますか	
		国際教育の充実	11	国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか	
	特別活動・部活動	充実と活性化	12	特別活動の実施内容は充実していますか	
			13	部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか	
・生徒支援指導	生徒指導体制の確立	学習指導、進路指導の充実	14	生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか	
		指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察	15	生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか	
	生徒支援	支援を必要とする生徒	16	特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか	
・教資職員 向研上修	研修体制の充実	研修体制の充実	17	教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか	
		人権教育の充実	18	学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行えていますか	
	資質向上	業務遂行の際の連携協力	19	業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか	
			20	指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか	

【令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙（生徒用）】

より良い学校づくりのためのアンケートにご協力をお願いします。

アンケートの回答は、成績などに関係するものではありません。

別紙の案内文に記載のQRコードを読み込み、WEBにて回答してください。（回答期限:3月9日）

次の各質問について、A～Dのうちあてはまる欄に○印をつけてください。

A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない

番号	設 問	評価			
		A	B	C	D
1	学校生活は楽しい。				
2	学校は落ち着いて学習できる環境である。				
3	学校の授業はわかりやすい。				
4	先生は授業やレポートのわからない点を丁寧に教えてくれる。				
5	相談や質問など、先生に話しやすい。				
6	先生は学習で努力したことを認めてくれる。				
7	学校生活のルールや生徒指導の内容は、納得できるものである。				
8	学校は、卒業後の進路についての情報をよく知らせてくれる。				
9	先生は、卒業後の進路について丁寧に相談に乗ってくれる。				
10	長尾谷への入学前の説明会はわかりやすかった。				
11	学校のホームページやNCCなど、必要な情報はたえず更新されている。				
12	学校は施設・設備について、日々整理・点検を行い学習環境の改善に努めている。				
13	学校は事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施し、生徒の安全に注意をはらっている。				
14	国際社会について学んだり、海外の文化について考えたりする機会がある。				
15	命の大切さや人権について学ぶ機会がある。				
16	パソコンなどのICT機器活用能力やSNSなどの使い方(情報発信モラル)について学ぶ機会がある。				
17	特別活動の内容が充実している。				
18	部活動は盛んである。				
19	学校は特別な支援・配慮が必要な生徒に、丁寧に対応している。				
20	学校は生徒のプライバシーを守っている。				
21	この学校には他の通信制にはない特色がある。				
22	この学校で学ぶことができて良かった。				

【令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙（保護者用）】

学校教育目標にもとづく教育活動や学校運営の状況等について評価・改善を行い、
教育の質を高めることを目的とした学校評価を実施いたします。本校教育の一層の充実・改善
に向け、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

別紙の案内文に記載のQRコードを読み込み、WEBにて回答してください。（回答期限:3月9日）

次の各質問について、A～Dのうちあてはまる欄に○印をつけてください。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

番号	設 問	評価			
		A	B	C	D
1	お子さんは、学校生活が楽しそうである。				
2	お子さんにとって、学校は落ち着いて学習できる環境である。				
3	お子さんは、学校の授業はわかりやすいと言っている。				
4	教員は、生徒を理解し、親身になって指導している。				
5	教員は、生徒の評価を適切・公平に行っている。				
6	学校は、保護者の相談に適切に応じている。				
7	学校生活のルールや生徒指導の内容は、納得できるものである。				
8	学校は、卒業後の進路についての情報をよく知らせてくれる。				
9	教員は、卒業後の進路について丁寧に相談に乗ってくれる。				
10	長尾谷への入学前の説明会はわかりやすかった。				
11	学校のホームページやNCCなど、必要な情報はたえず更新されている。				
12	学校は施設・設備について、日々整理・点検を行い学習環境の改善に努めている。				
13	学校は事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施し、生徒の安全に注意をはらっている。				
14	学校は、国際社会や海外の文化についての学びの時間を設けている。				
15	学校は、命の大切さや人権についての学びの時間を設けている。				
16	学校は、ICT活用能力や情報発信モラルについての学びの時間を設けている。				
17	特別活動の内容が充実している。				
18	部活動は盛んである。				
19	学校は特別な支援・配慮が必要な生徒に、丁寧に対応している。				
20	学校は生徒のプライバシーを守っている。				
21	この学校には他の通信制にはない特色がある。				
22	この学校で学ぶことができて良かった。				

令和8年2月9日

生徒・保護者の皆さま

長尾谷高等学校

校長 森 知史

令和7年度学校評価アンケートについて（依頼）

立春の候、皆さまにはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、本校教育活動の推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、学校教育目標に基づく教育活動や学校運営に状況等について、評価・改善を行い、教育の質を一層高めることを目的とした学校評価を実施いたします。

つきましては、次のとおり学校評価アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

なお、皆さまからいただいた評価の集計結果については、本校 WEB ページに掲載のうえ、学校改善の資料として活用させていただきます。

記

- 1 評価項目 生徒・保護者とも22項目
- 2 回答方法 WEBにて回答（QRコード参照）

《生徒用アンケート》

《保護者用アンケート》



<https://forms.gle/j9GbyZbBykcdkwqN8>



<https://forms.gle/PrvFiY4J9UDCKYuq5>

- 3 回答期間 令和8年2月9日（月）～3月9日（月）

《連絡先》	長尾谷高等学校梅田校 分校長 安居 健治 TEL 06-6454-8810
-------	---

Ⅲ 令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート総括

2025（令和7）年度、学校法人東洋学園長尾谷高等学校の教育活動に係る関係教職員、生徒、保護者による自己評価の集計および分析結果について報告する。

教職員アンケートの集計および分析結果

枚方本校・梅田校・なんば校のすべての常勤教員と事務総括主任の計55名を対象にアンケート（20項目）を実施した。

全回答結果を肯定的評価（A＋B）と否定的評価（C＋D）に分けて分析した場合、肯定的評価は92.7％であり、昨年度の回答より3.7ポイント下回った。

アンケート方式を従来の紙ベースから、Googleフォームを使用したスマートフォン等での回答形式と変更したことから、昨年までとは単純比較はできないものの、教職員は本校の教育内容全般にわたって、概ね高い自己評価をしていることがわかる。

以下、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が100％】

全20問中、⑫「特別活動の充実」、⑮「指導方針の共通理解」、⑳「自己研鑽」の3項目が該当する。

各校舎では特別活動として、ホームルーム、映画鑑賞、宿泊行事、校外学習など年間170時間以上の様々な行事を実施しており、府認可校の中でも突出した時間数となっている。多彩な特別活動は、友だちづくりや思い出づくりの場として、本校の特長であり魅力の一つとなっている。

また、全教職員による指導方針の共通理解のもと、開校以来30年以上にわたり実践してきたきめ細やかで丁寧な指導は、生徒・保護者はもちろん、中学校や高校の先生方にも安心して任せられる学校であるとの評価をいただいている。これにおごることなく、教職員は各々の指導力向上に向け、たゆまない努力と研鑽を続けている。

【肯定的評価が95％以上かつ100％未満】

全20問中、②「教育計画について」、④「教員と事務職員との連携」、⑨「人間性を培う教育の充実」、⑩「面接指導の充実」、⑲「業務遂行の際の連携協力」の5項目が該当する。

長尾谷では、職員室と事務室が一体化していることから、常に相互連携しながら業務が遂行できしており、必要に応じて、管理職や先輩教員が若手教員に指導助言を行える環境が整っている。全教職員が基本的人権を尊重しながら、カウンセリングマインドをもって、生徒一人ひとりに寄り添った面接指導が展開されていることも本校の大きな特色である。

【肯定的評価が90％以上かつ95％未満】

全20問中、①「学習指導要領への対応」、③「教員間連携」、⑤「学校HPの充実」、⑥「説明内容の精選と検証」、⑭「学習指導、進路指導の充実」、⑯「生徒支援」の6項目が該当する。

長尾谷の志望理由に「学校HPを見て」が多くを占めることから、その充実に向け精力的な更新を図っているところである。月に2回程度開催する学校説明会においても、単なる説明にとどまらず、在校生インタビューや体験授業など、「いつもと違う学校説明会」を実施するなど、斬新な取組をとおして新入生の獲得に尽力している。

また、生徒の実態に即した、一人ひとりに寄り添う指導が実践されており、支援を要する生徒に対しても、学校全体でサポートする体制を確立している。

【肯定的評価が90%未満】

全20問中、⑦「危機管理の徹底」、⑧「情報教育の充実」、⑪「国際教育の充実」、⑬「部活動の活性化」、⑰「教職員研修の充実」、⑱「人権教育の充実」の6項目が該当する。これらの項目については、更なる充実が必要であると感じた教職員が1割～2割程度存在する結果となった。

全教職員がICT機器に関するスキルの更なる向上に努めるとともに、通信制の特色や本校生徒の実態に即した授業内容の工夫・改善やモラル指導の充実を着実に進めていくことが重要である。

また、教職員研修については、新任や中堅、事務職員を対象とする各種研修や教科単位の授業研究会や実技研修会が開催されているが、今後さらに、教職員の資質向上に向けた取組を充実させていく必要がある。

生徒アンケートの集計および分析結果

校方本校・梅田校・なんば校の生徒を対象にアンケート（22項目）を実施し、131名から回答を得た。

全回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は84.8%であり、昨年度の回答より1.3ポイント下回った。アンケート方式を従来の紙ベースから、Googleフォームを使用したスマートフォン等での回答形式と変更したことから、昨年までとは単純比較はできないものの、生徒の大多数が本校の教育内容全般にわたって高い評価をしていることが見て取れる。

以下、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が95%以上かつ100%未満】

全22問中、⑪、⑰の2項目が該当する。

学校ホームページやインターネットを利用した学習サポートであるNCC（長尾谷サイバーキャンパス）について高い評価をしており、学校生活に大いに活用している様子が充分うかがえる。

長尾谷の大きな特長である特別活動についても、極めて高い評価をしていることがわかる。各校舎では、年170時間以上もの多彩な行事を実施しており、生徒たちは自分の興味や関心に応じて自由に参加することができる。高校生活を楽しむことができる貴重な機会となっており、特別活動を心待ちにしている生徒も多い。

【肯定的評価が90%以上かつ95%未満】

全22問中、⑥、⑦、⑩、⑫、⑳、㉒の6項目が該当する。

大多数が学習環境や教育内容、教員の対応に好印象を持っていることから、生徒たちと教職員間に良好な信頼関係が構築され、学校に対して厚い信頼を寄せていることがうかがえる。

入学前の学校説明会はとてもわかりやすいという評価で、その際の印象が数ある通信制高校の中から長尾谷を選ぶに至った大きな契機になったことがわかる。

ほとんどの生徒がこの学校で学んで良かったと高く評価していることから、多くの生徒が長尾谷で充実かつ満足感のある学校生活を送っていることがうかがえる。

【肯定的評価が80%以上かつ90%未満】

全22問中、③、④、⑤、⑧、⑨、⑬、⑮、⑲、㉑の9項目が該当する。

授業やレポート、相談体制等については概ね及第点となっているが、長尾谷の生徒は不登校経験者が多く学習面で不安を持つ者が少なくないことから、教職員の丁寧な学習指導をさらに充実させていく必要がある。また、安全教育や人権教育については、やや否定的な回答を寄せている生徒が一定数存在することから、教職員のさらなる努力が必要である。

【肯定的評価が80%未満】

全22問中、①、②、⑭、⑯、⑱の5項目が該当する。

国際教育については、毎年セブ島語学研修やバンクーバー語学研修を実施しており、部活動についても、6つのクラブが府代表として夏季全国大会に出場し、サッカー部が準優勝という輝かしい成績をあげている。いずれも、生徒への周知不足が高くない評価となった理由の一つと考えられる。また、学校生活が楽しいかの項目について、否定的回答が2割近くあることは全教職員の今後の課題としたい。

保護者アンケートの集計および分析結果

枚方本校・梅田校・なんば校の保護者を対象にアンケート（22項目）を実施し、127名から回答を得た。

回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は85.8%であり、昨年度の回答より0.9ポイント上回った。アンケート方式を変更したことから、昨年までとは単純比較はできないものの、生徒同様、保護者の大多数も本校の教育内容全般にわたって高い評価をしていることが見て取れる。

以下、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が95%以上かつ100%未満】

全22問中、⑩、⑪、㉒の3項目が該当する。

学校説明会やホームページ、NCCなどについて高い評価をしており、学校が発信するさまざまな情報に、保護者が強い関心を持っていることがわかる。また、生徒のプライバシーに配慮した丁寧な指導についても、極めて高い評価をしていることが見て取れる。以上のことから、保護者として、多くの生徒が満足して学校生活を続けていると好意的に評価していることがうかがえる。

【肯定的評価が90%以上かつ95%未満】

全22問中、⑤、⑥、⑦、⑫、⑰、㉓の6項目が該当する。

保護者は、生徒評価のあり方や保護者への相談業務、生徒指導の内容等、高い評価をしており、本校の大きな特長の一つである特別活動についても、大きな期待を寄せていることがわかる。また、長尾谷で学んで良かったと回答した保護者が生徒よりも多かったことについては、生徒の学校生活に、保護者は十分に満足していることがうかがえる。

【肯定的評価が80%以上かつ90%未満】

全22問中、②、③、④、⑬、⑭、⑮、⑲、㉑の8項目が該当する。

本校の学習指導や生徒指導のあり方、安全教育、国際教育、人権教育等に関して、改善の余地があると考えている保護者が一定数いることがうかがえる。今後、各チューターと保護者間のより緊密な連携を図りながら、長尾谷に対する信頼を一層厚くしていく努力が

必要である。

【肯定的評価が80%未満】

全22問中、①、⑧、⑨、⑯、⑳の5項目が該当する。

進路に関する情報提供や相談、ICT教育等について、もの足りなさを感じている保護者が一定数存在することがわかる。部活動についても、全国大会等に複数クラブが出場している事実を大半の保護者が知らないことが否定的回答の多さに表れていると思われる。今後、ホームページや連絡便を使ってさまざまな情報を発信していくなど、教育内容の深化充実に向けた新しい取組を進めていく必要がある。

全体を通して

ア 令和7年度末をもって奈良分室が閉室した。これにより、長尾谷高等学校は枚方本校、梅田分校、なんば分校の3校体制となった。

イ 学習指導面では、新学習指導要領施行4年目を迎え、「生きて働く知識・技能の習得」、「未来の予知にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の学力の3観点の伸長に向けて、全教職員が総力を挙げて教育活動を推進してきた。一方で、ICT機器の充実等、時代の進展に対応した教育環境の整備は、本校にとっての喫緊の課題である。

エ 通信制高等学校に高い関心が寄せられる中で、通信教育の質の確保や教育内容の向上が重要な課題であり、校内では、新任研修、中堅研修など各種研修会を開催し、教職員の資質向上と不祥事の根絶に向けた取組を推進した。

オ アンケート方式を従来の紙ベースから、Googleフォームを使用したスマートフォン等での回答形式と変更したことにより、アンケート集約が容易にできるようになった点はメリットが大きい。生徒、保護者とも昨年に比べ回答数が大幅に減少した点は大きな課題となった。全生徒宅にアンケートへの協力を依頼する文書を送付したが、これだけでは不十分であったと言わざるを得ない。次年度以降については、NCCや毎月の定期便等を使っての周知など、回答数を増やす新たな取組が必要である。

令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈教職員分〉

A～Dの単位はすべて%

質問	A	B	C	D	分析結果
1	56.4	38.2	5.4	0.0	高等学校の新学習指導要領となって4年目を迎えたが、本校では、これに的確に対応した教育課程を編成し、生徒一人ひとりに寄り添った授業が行われている。
2	58.2	40.0	1.8	0.0	各教員が年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めていることがわかる。
3	61.8	30.9	7.3	0.0	分校内はもちろん、学校間においても教員相互が緊密に連携する中、積極的に情報交換を行い、共通理解を図りながら教育活動を展開していることがわかる。
4	74.5	23.6	1.9	0.0	教員と事務職員間で緊密なコミュニケーションや連絡を取り合う中、相互理解に努め、共通意識をもって教育活動を展開していることがわかる。
5	47.3	45.5	7.3	0.0	学校HPは逐次更新されているが、入学者確保の観点から、その内容や更新スピードについて、今後も検討を進めていく必要がある。
6	58.2	36.4	5.4	0.0	中学生や高校生およびその保護者に対して、各回の学校説明会において適切な知識や情報が提供されていることがわかる。
7	30.9	56.4	12.7	0.0	「危機管理マニュアル」の教職員への周知徹底や避難訓練等の充実については、今後、改善の余地があると思われる。
8	14.5	72.7	10.9	1.9	ICT活用能力や情報発信モラルの育成については、教科「情報」の授業だけでなく、すべての教科やあらゆる教育活動を通じて、一層の充実が必要である。
9	43.6	54.5	1.9	0.0	様々な課題を持つ生徒に対して、生徒自身が自分や周囲の人々を大切にする意識を高めることができるよう、引き続き、粘り強い指導が必要である。
10	45.5	50.9	3.6	0.0	学習習慣や学力に課題を持つ生徒が多く在籍する中で、生徒に発問しながらの双方型授業やアクティブラーニングの実施が厳しい現状に多くの教員が苦心している。
11	27.3	58.2	14.5	0.0	Eクラスのセブ島語学研修や、バンクーバー海外語学研修などのプログラムが実施されているが、今後更なる充実が求められている。
12	74.5	25.5	0.0	0.0	本校では、多彩な特別活動プログラムが提供されており、教職員が協力して、一層の深化充実に向けて取り組んでいることがわかる。
13	50.9	27.3	21.8	0.0	通信制特有の学習形態や登校スタイル、3校体制など部活動の実施に関する諸課題はあるものの、6つのクラブが全国大会等に出場するなど、熱心な活動が続けられている。
14	56.4	36.4	7.3	0.0	進路指導については、大学・短期大学や専門学校への進学や就職の両面で、生徒のニーズに応じた適切な指導が行われていることがうかがえる。
15	56.4	43.6	0.0	0.0	様々な経緯を経て本校に入学した生徒に対して、教職員がカウンセリングマインドを持ち、生徒一人ひとりに寄り添いながら丁寧な指導が行われていることがうかがえる。
16	45.5	47.3	7.3	0.0	各分校の特別支援コーディネーターを中心に、支援を要する生徒の情報を集約しながら共通理解が図られている。
17	27.3	54.5	14.5	3.7	教職員研修については、新任教員や事務職員を対象とする研修のほか、各教科の授業研究会や実技研修会が定期的に開催され、資質向上が図られている。
18	23.6	61.8	12.7	1.9	主担者を中心に、あらゆる場面を通じて人権教育に取り組んでいるが、今後一層の深化充実に向け更なる工夫が必要である。
19	54.5	43.6	1.9	0.0	各分校の管理職や中核となる教職員が中心となり、風通しの良い職場環境や報連相体制を構築し、良好なチームワークのもとで円滑に学校運営が展開されていることがわかる。
20	52.7	47.3	0.0	0.0	各教員は自身の指導力向上に向け、自己研鑽が必須であることは十分に理解しているが、一層の充実に向けて更なる努力を期待したい。

令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈生徒分〉

A～Dの単位はすべて％

質問	A	B	C	D	分析結果
1	32.1	47.3	13.0	7.6	多くの生徒が学校生活にうまく適応していると思われるが、より魅力ある学校づくりをめざしたい
2	38.2	41.2	16.8	3.8	校内の学習環境は概ね落ち着いていると思われる
3	36.6	48.9	12.2	2.3	学習面で課題を持つ生徒は多いが、前向きに努力を続けていることがうかがえる
4	45.0	42.0	10.7	2.3	教員の指導ぶりは概ね生徒に肯定的に受けとめられている
5	43.5	36.6	15.3	4.6	どの生徒に対しても分け隔てなく公平に接していることが高評価につながっている
6	51.9	40.5	6.1	1.5	電話での問い合わせも含め、教職員の親切丁寧な対応が生徒に安心感を与えている
7	72.5	21.4	3.1	3.1	学校生活上のルール等についてはほとんどの生徒は理解、納得している
8	47.3	34.4	13.7	4.6	進路情報については概ね理解されているが、発信方法等について更なる工夫が必要である
9	48.9	33.6	14.5	3.1	進路相談については好意的に受け取られているが、生徒に寄り添う姿勢がより求められている
10	55.0	36.6	7.6	0.8	説明会等は高評価を得ているが、今後もより丁寧に説明し入学者増に確実ににつなげたい
11	63.4	32.1	4.6	0.0	学校HPやNCCは認知度が高いが、情報発信ツールとして更なる深化充実をめざしたい
12	48.9	45.0	5.3	0.8	学習環境は概ね好意的に受け取られているが、改善に向けて継続した取組が必要である
13	45.8	38.9	14.5	0.8	避難訓練等は理解が進んでいるが、生徒の安全につながる取組の充実が求められている
14	26.7	37.4	25.2	10.7	Eクラスや海外語学研修のほか、広く世界が学べる授業や特別活動の展開が必要である
15	39.7	41.2	16.0	3.1	人権LHRなど様々な場面で人権感覚を身に付けられるよう、更なる取組の推進が必要である
16	27.5	49.6	18.3	4.6	ICT機器の活用能力や情報発信モラルの向上に向けた取組の充実が求められている
17	70.2	26.0	3.8	0.0	特別活動については本校の大きな特色であり、大部分の生徒が高評価をしている
18	19.8	44.3	26.0	9.9	毎年複数の部が全国大会出場を果たしており、HP等でより積極的な情報発信が必要である
19	42.0	45.8	9.9	4.6	教職員は生徒の状況を的確に把握し、生徒・保護者に寄り添い対応していることがうかがえる
20	62.6	32.1	4.6	0.8	教職員は生徒のプライバシーを尊重しながら適切に対応していることがうかがえる
21	47.3	34.4	16.0	2.3	本校の特色については概ね理解され好意的にとらえられている
22	60.3	32.1	6.1	1.5	ほとんどの生徒が本校での学校生活を肯定的に受けとめ高評価を得ている

令和7年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈保護者分〉

A～Dの単位はすべて％

質問	A	B	C	D	分析結果
1	32.5	55.1	25.2	0.8	生徒が学校生活にうまく適応していると、大半の保護者が評価していることがうかがわれる
2	24.4	59.1	15.7	0.8	校内の学習環境は概ね落ち着いていると、多くの保護者が評価していることがうかがわれる
3	22.8	60.6	16.5	0.0	学習面に課題を持つ生徒が多いが、教員の学習指導については肯定的な意見が多い
4	37.0	48.0	15.0	0.0	教員の丁寧な指導ぶりは、保護者に概ね好感をもって受けとめられている
5	49.6	44.9	5.5	0.0	いずれの生徒に対しても公平・平等に接していることが高評価につながっている
6	44.9	47.2	6.3	1.6	電話対応を含め、教職員の親切丁寧な対応が保護者に安心感を与えている
7	56.7	37.8	5.5	0.0	学校生活上のルール等についてはほとんどの保護者が理解、納得している
8	19.1	50.4	24.4	7.1	進路情報は概ね理解されているが、発信方向等については更なる改善が必要である
9	28.3	47.2	22.0	2.4	進路相談については好意的に受け取られているが、生徒に寄り添う姿勢がより求められている
10	63.8	32.3	2.4	1.6	説明会等は高評価を得ているが、今後も工夫改善し入学者の獲得に確実ににつなげたい
11	60.6	35.4	3.1	0.8	学校HPやNCCは認知度が高いが、情報発信ツールとして更なる深化充実をめざしたい
12	31.5	59.1	9.4	0.0	学習環境は概ね好意的に受け取られているが、改善に向けて継続した取組が必要である
13	32.3	55.9	11.0	0.8	避難訓練等、生徒の安心・安全を第一に更なる取組の充実をめざしたい
14	26.8	52.8	18.9	1.6	Eクラスや海外語学研修以外にも、世界が学べる授業や特別活動が求められている
15	23.6	60.6	13.4	2.4	人権LHRなど様々な場面で人権感覚を身に付けられるような取組の推進が必要である
16	18.9	59.8	19.7	1.6	ICT能力や情報モラルは保護者も高い関心を寄せており、深化充実が不可欠である
17	69.3	25.2	4.7	0.8	本校の特別活動については、生徒同様、大部分の保護者が高い評価をしている
18	12.6	45.7	37.0	4.7	全国大会出場部をはじめ各部の活動状況については、HP等での情報発信が肝要である。
19	32.3	54.3	13.4	0.0	教職員は生徒の状況を的確に把握し、生徒・保護者に寄り添い対応していることがうかがえる
20	56.7	40.2	3.1	0.0	教職員は生徒のプライバシーを尊重しながら適切に対応していることがうかがえる
21	36.2	46.5	16.5	0.8	本校の特色については概ね理解され好意的にとらえられている
22	57.5	37.0	5.5	0.0	多くの生徒・保護者が、本校での学校生活を肯定的に受けてめている

Ⅳ 令和7年度 長尾谷高等学校 学校関係者評価 概要

(名称) 名称を「長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」とする。

(目的) 1 長尾谷高等学校の教育活動の一層の向上に向け、学校と連携しながら取り組む。

2 学校関係者評価を実施し、学校の教育活動を支援する。

3 校長の求めに応じ、学校の運営に関し意見を述べる。

(活動) 1 委員の任期は4月から翌年3月までの1年とする。

2 委員の再任は妨げない。

3 会議は校長が主催する。会議を開催できない場合は、校長が意見等を聴取する。

(事務局) 事務局を長尾谷高等学校枚方本校に置く。

(構成) 令和8年度委員（敬称略）

藪中 俊彦 （大阪府立桜宮高等学校長）

大西 忠典 （大阪府立東高等学校長）

端野 克也 （東洋学園高等専修学校副校長）

山田 裕二 （近畿情報高等専修学校副校長）

岩見 晃宏 （長尾谷高等学校同窓会会長）

V 「令和7年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

1 「学校運営」評価

- ・「学校運営」全般について、概ね全教職員が高評価していることから、貴校が全教職員の共通理解のもと組織的に学校運営を行っていることがわかる。しかしながら、「危機管理マニュアル」の周知徹底等に対する教職員の否定的回答が約13%である。この点については、昨今の高校教育を取り巻く状況を鑑みると、早急に改善すべきである。また、「お子さんは学校生活が楽しそうである」との質問に対し、保護者の26%が否定的回答であった。今後、保護者にも理解を得られるよう、より魅力ある学校運営を行っていただきたい。
- ・教員アンケートの項目、「教育計画」、「教員と事務職員との連携」について、いずれも肯定的評価が98%を上回っており、教職員が常に相互連携し、教育活動に則った学校運営がなされている様子が見えてくる。
- ・全体的に肯定的な評価が高く、教職間の連携が良く取れている事が伺える。また、情報公開においてはタイムリーに更新され適切な情報が発信、提供されている。
- ・教職員の連携がとれ、校務がスムーズに行われている。
- ・教職員による授業の充実や教員と職員の緊密な連携により、生徒にとって質の高い学校運営が実現されていることがうかがえる。特に、学校説明会の充実によって生徒数の確保につながっている点や、学校ホームページ・NCC（Nagaodani Cyber Campus）等を通じた継続的な情報発信により、生徒・保護者との信頼関係が構築されていることは高く評価できる。一方で、アンケート結果からは、学校の特色ある教育活動や部活動等について、更なる情報発信を期待する意見も見受けられる。本校の魅力をより多くの生徒・保護者へ伝えるためにも、引き続き、積極的な情報発信に期待したい。

2 「教育内容・教育の課題」評価

- ・「教育内容・教育の課題」について、概ね全教職員が高評価しているが、「情報教育の充実」、「国際教育の充実」については否定的評価の割合が高くなっている。さらに、この2項目については生徒からの回答も、否定的割合が突出して高い。どちらも現代の教育の肝になる項目であるため、さらなる充実に向けて対策を立ててもらいたい。
- ・特別活動の充実に関して、肯定的評価は生徒が96.2%、保護者が94.5%と著しく高く、学校生活の満足度に繋がっている。一方、国際理解教育については毎年語学研修等のプログラムを実施しているにもかかわらず、肯定的評価が他の項目と比較して低く、生徒・保護者への研修成果の周知も含め、更なる充実を図られたい。
- ・情報教育においてICT活用、情報モラル育成は充実が必要だと思う。教育体制では肯定的評価が高く教育の充実がしっかり図られている事が伺える。課題の多い生徒が居る中、人間教育の充実にも関わられておられる。
- ・情報教育の充実には、一層の計画・取組が必要に思われる。特別活動が充実し、生徒が学校行事やクラブ活動にも楽しんでいるところがわかる。

- ・アンケート結果及び各種分析から、多様な学習歴や背景を持つ生徒が在籍する中、一人ひとりに応じた教育活動が実践されていることがうかがえる。そのような環境において、ICT 活用能力の育成や国際教育、人間性をはぐくむ教育の充実に継続して取り組まれていることは評価したい。また、特別活動については、教職員・生徒ともに高い評価を得ており、本校の特色ある教育活動として大きな強みとなっている。部活動についても、充実した活動が行われている一方、その魅力や成果が十分に伝わっていない可能性も示されており、更なる情報発信や参加機会の充実が期待される。今後は、ICT を効果的に活用した双方向型授業やアクティブラーニングを更に推進することで、生徒一人ひとりの主体的な学びにつながる教育の充実に期待したい。

3 「生徒指導・支援」評価

- ・「生徒指導・支援」について、概ね全教職員が「あてはまる」と回答していることから、貴校の生徒指導・支援体制の充実ぶりがうかがえる。しかしながら、「卒業後の進路情報をよく知らせてくれる」との質問に対し、生徒の 18%、保護者の 32%が否定的回答であった。生徒・保護者のニーズに合った進路情報の提供方法について、新たな方法を構築されたい。
- ・教員アンケートにおいて、指導方針の共通理解項目の肯定的評価が 100%、生徒・保護者の指導方針に関する理解度が 93.9%・94.5%と、ほとんどの生徒・保護者の納得性が得られており、全教職員の共通理解のもと、丁寧な生徒指導を行っている結果であると考えられる。
- ・全教職員が指導方針を共通理解のもと、丁寧に寄り添いながらの生徒指導・進路指導は評価できる。支援を要する指導に至っても、情報共有と共通理解がしっかり図られている。
- ・生徒指導や支援についても、前向きに実施していることがうかがえる。
- ・多様な背景や特性を持つ生徒が在籍する中、教職員間で共通理解を図りながら、一人ひとりに寄り添った支援が実践されていることは高く評価できる。近年は、発達障害や精神疾患、厳しい家庭環境など複雑な課題を抱える生徒も増えており、本校が果たす役割はますます重要になっている。そのような状況において、生徒が安心して学校生活を送り、自らの進路を選択できるよう、組織的な支援体制を継続して充実させていただきたい。また、進路指導については、生徒と教職員との評価に若干の差が見受けられることから、生徒が将来への見通しを持ちながら卒業できるよう、更なる支援の充実に期待したい。

4 「教員研修・資質向上」評価

- ・「研修体制の充実」、「人権教育の充実」について、教職員の否定的回答の割合が高い。一方で、「業務遂行の際の連携協力」については、否定的回答はほとんどない。より組織的な研修体制を構築することが急務である。

- ・研修の成果の共有についての肯定的回答は 81.8%に留まるものの、管理職および先輩からの適切な助言、指導力向上のための自己研鑽についての肯定的回答率は 98.1%、100%と極めて高く、若手教員が管理職・先輩教員の指導を受けながら、学校全体として資質の向上に取り組んでいる様子が見えてくる。
- ・研修体制の充実の否定的評価が気になる。アンケート結果を基に今後、肯定的評価へ反映されることに期待する。全教職員の指導力向上に向けた取組みがアンケート結果からしっかり伺える。
- ・各研修において、研修内容の情報共有、研修結果を以降の教育活動に生かす方策の検討の 2 点が大切と考える。
- ・教職員研修については、継続的な取組が行われているものの、教職員による自己評価では改善の余地も見受けられる。教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、ICT 教育や多様な生徒への支援、授業改善など、現場で必要とされる研修内容について、継続的な検討が望まれる。また、本校の特色である多様な生徒への支援を更に充実させるために、教職員が専門的知見を学び続けられる研修体制の充実に期待したい。

5 「総括」の評価

- ・ICT 機器の充実等、時代の進展に対応した教育環境の整備が喫緊の課題であると評価されている。「働き方改革」の観点からも、ICT 機器の充実は待ったなしの状況である。組織一丸となった令和型の教育環境の整備を期待する。
- ・肯定的評価が 80%以上の項目は、生徒アンケートでは 22 項目のうち 17 項目、保護者アンケートでは 22 項目のうち 18 項目となっており、学校の教育内容・指導方針が多くの生徒・保護者に理解され、受け入れられていると思われる。
- ・分析された通り、教育内容全般にわたり教職員全体が相互理解に基づいて教育活動が行われ、自信を持った評価に繋がっている。通信制高等学校への注目が高まる中、長尾谷高等学校の更なる活躍に期待する。
- ・全体として、生徒・保護者・教職員のアンケート結果から、本校の教育活動及び学校運営は概ね高い評価を得ていることが確認できた。特に、生徒指導や特別活動、学校説明会の充実などは本校の特色として定着しており、生徒・保護者からの信頼につながっていることがうかがえる。一方で、ICT 教育や国際教育、学校ホームページ等による情報発信については更なる充実を期待する声も見受けられた。今後も本校の強みを大切にしながら、社会の変化に対応した教育活動の充実を図るとともに、生徒一人ひとりに寄り添う教育が継続されることを期待したい。

6 その他、今後の学校運営についての意見

- ・通信制高校の人気の拍車がかかる中で、大阪の他の通信制高校との差別化を図る必要がある。「長尾谷高校」でしか学べない独自性のある戦略的学校運営を期待する。
- ・複数クラブの全国大会出場等の成果が、より多くの生徒・保護者に共有されれば、部活動参加生徒の増加・学校生活に対する満足度の更なる向上に繋がるのではないかと期待する。

- ・時代の変化に対応した生徒指導については多くの難しい課題があるが、今後は一層の充実に期待したい。
- ・本校は、多様な背景や目的を持つ生徒を受け入れ、授業や特別活動、学校行事などとおして、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに取り組んでいる。通信制高校でありながら、学校らしさを感じられる教育活動が行われていることは本校の特色であり、生徒一人ひとりの学びを大切にする姿勢が感じられた。近年、生徒を取り巻く課題は多様化・複雑化しており、学校に求められる役割も広がっている。そのような中、専門的な知見も取り入れながら、教育相談や支援体制の充実を図ろうとする学校姿勢は、今後の学校運営において重要な視点であると考えている。教育活動と支援がより結びつくことで、生徒一人ひとりの学びや成長を支え、それぞれの状況に応じた進路選択につながる教育が更に充実していくことを期待したい。今後も、一人ひとりの背景に寄り添いながら、安心して学べる環境を大切にし、「卒業」がゴールではなく、その先の未来を見据えた教育活動と支援、進路指導がより一体となることで、生徒が自ら進路を選び取る力をはぐくむ学校づくりが更に発展することを期待したい。